

従来、大学入試における英作文といえば、与えられた日本文を英語で書く「和文英訳」が一般的でした。しかし近年、あるテーマについて基本的に自由に思うところを書く、いわゆる「自由英作文」の出題が国公立大学を中心に急速に増加し、英作文問題の主流になりつつあります。2年後から実施される学習指導要領では、「ライティング」の目標として「情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書く能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる」ことを掲げています。今後も私立大学を含めて自由英作文の出題は増えることが予想されます。

しかしながら、受験生の多くは自由英作文への対策が十分できているとは言い難いのではないかでしょうか。その理由の一つとして、これまで自由英作文対策に的を絞った参考書・問題集がほとんどなかったということが挙げられると思います。

そこで本書は大学入試における自由英作文への対策を示し、様々な問題に対応できる力をつけることをを目指して編集しました。

《本書の構成》

1. 「例題」及び「Practice」はすべて最近の国公立大学の入試において出題された問題から精選しました。
2. 自由英作文の問題を入試における典型的な5つのパターンに分類し、5章構成としました。
3. 章の初めにまずそのパターンの問題の「対策」を述べました。〈Useful Expressions〉が掲載されている章もあります。
4. 次にそのパターンの問題の「例題」「添削例」「合格解答例」を掲載しました。また、それぞれ〈Points〉〈Comments〉〈Further Comments〉で補足説明がしてあります。
5. 「Practice」では〈Points〉をつけ、書こうとする内容についての構想を立てる際のヒントを与えました。〈Words & Phrases〉は必要最小限にとどめています。

《本書の活用方法》

1. 「対策」をしっかりと読んで、そのパターンの問題の対応方法をきちんと身につけます。〈Useful Expressions〉がある場合は、自分のものとして自在に使いこなせるようにします。
2. 「例題」にチャレンジします。「対策」や〈Points〉を参考にじっくりと時間をかけて、自分自身の発想に基づいた答案を作成します。できあがった答案は「添削例」「合格解答例」を見てまず自分の手でチェックしてみます。
3. 「Practice」は、〈Points〉を参考にして構想をきちんとまとめてから、答案を解答欄に書き込むようにします。もちろん、与えられている〈Points〉の発想に必ずしもとらわれる必要はありません。自由英作文における基本姿勢は自分の「書きたい」あるいは「書きやすい」ことを書くことです。
4. 答案は先生の解説・指導・添削等によって訂正・確認し、自分で納得できる英文になるまで磨きあげて下さい。

このようなことを着実に行い、努力を続ければ自由英作文への取り組みが「楽しい」ものとなり、英語における自己表現能力が確実に身につくはずです。皆さんの健闘を祈ってやみません。

§ 1 道案内	4
《例題》 山口大学	5
Practice [1] 大阪女子大学	8
[2] 弘前大学	9
§ 2 手紙文	10
《例題》 都留文科大学	10
Practice [1] 筑波大学	13
[2] 宇都宮大学	14
[3] 東京農工大学	15
§ 3 イラスト・図表	16
《例題》 東京大学	16
Practice [1] 横浜国立大学	19
[2] 大阪市立大学	20
[3] 横山大学	21
§ 4 ストーリー作成	22
《例題》 九州大学	22
Practice [1] 宮城教育大学	25
[2] 東京工業大学	25
[3] 東京大学	26
[4] 東北大学	27
§ 5 Personal Opinion	28
《例題》 横浜国立大学	29
Practice [1] 神戸大学	31
[2] 東京大学	31
[3] 鹿児島大学	32
[4] 大阪大学	32
[5] 大阪外国语大学	33
[6] 大阪大学	34
[7] 神戸商科大学	35
[8] 広島大学	36
[9] 名古屋市立大学	37
[10] 愛媛大学	38

対策

道案内の問題は、与えられた地図に基づいて、目的地までの道順を示すという形式がほとんどであるが、対話文形式のものや、手紙文との融合問題となっているものもある。次のような点に留意して書くとよい。

1 わかりやすく

地図に与えられている情報をわかりやすく正確に書くように心がける。

2 簡潔な命令文で

原則として長い文を避け、簡潔な命令文をくり返す。場合によっては、条件文等を入れて表現が単調にならないように工夫する。

3 つなぎ語の利用

文と文をつなぐ際に順序が明確になるように「つなぎ語」を適宜入れる。

Ex. First, Then, Finally, etc.

4 慣用表現の活用

道案内に用いられる慣用表現を活用する。

Useful Expressions

- Go down this street. • この道をまっすぐ行ってください
- Go [Walk] (for) two blocks. • 2 ブロック先まで進んでください
- Cross the street. • その通りを渡ってください
- Go straight and turn right [left] at the corner [signal]. • まっすぐ進んで角 [信号] のところで右 [左] に曲がってください
- Make [Take] a left turn at the crossing [intersection, crossroads]. • 交差点で左に曲がってください
- You'll find it on your right [left]. • あなたの右手 [左手] に (それは) あります
- It's on the right [left] side of the street. • (それは) 道の右側 [左側] にあります
- It's opposite [across from] the building. • (それは) その建物の向かい側にあります
- It's next to the building. • (それは) その建物の隣です
- You can't miss it. • 簡単に見つかります

例題

Laura は引っ越しをしました。きょうは友人を自宅に招くことになっています。Jeff が電話をかけてきて道順をたずねています。以下に示した地図にもとづいて、下線部に英文を記入し、Laura の道案内を完成させなさい。

Jeff: Hello, this is Jeff.

Laura: Hi.

Jeff: I'm at the station but I don't know how to get to your place. Could you tell me the way?

Laura: Sure thing, but will you do me a favor on the way?

Jeff: My pleasure. What's that?

Laura: I need extra paper cups. Could you drop by Basket Market and buy some?

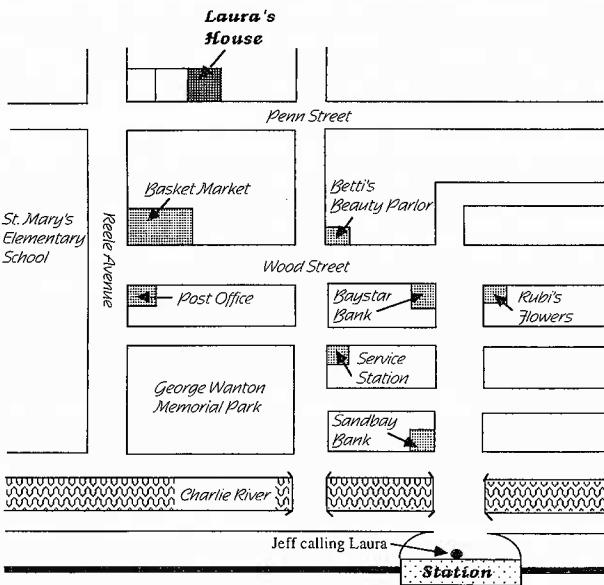
Jeff: No problem. And on the way I want to buy some roses for you at the florist's.

Laura: Oh, it's nice of you. OK, follow my directions and you'll be at my place. But just remember. Wood Street is blocked between Baystar Bank and Betti's Beauty Parlor, it's under repair now. So,

Jeff: I got you. Thanks much. See you later.

Laura: Thanks. Bye.

(山口大)



Points

道案内と対話文の混合問題である。Laura と Jeff の対話の内容から单なる Laura の家への道案内ではなく、次の 3 つの点が条件として与えられていることに留意しなければならない。

① Basket Market に立ち寄らなければならない。 ② 花屋に立ち寄らなければならない。
③ Wood Street には通行止めの箇所がある。

添削例

(So,) walk across^{the} Charlie River and go straight for three blocks.
You will see Rubi's Flowers ~~at~~^{on} your right. ~~Secondly~~^{And then}, go back toward the station and take^a the right turn at the first crossroad. Go two blocks and turn right. Basket Market is at the corner, across^s the post office. ~~At~~^{Finally}, go along Reele Avenue till you ~~will~~^{from} come to Penn Street and turn right. You will find my house^{one}, (which is) the third ~~house~~ on the left.

(78 words → 79 words)

Comments

つなぎ語の使い方に注意する。secondly は理由・論点等を 2 番目に述べる語である。at last は通例、努力した結果望ましいことが実現した場合に用いる。道案内としては、全体的にほぼ問題ないが、<合格解答例> のように、Rubi's Flowers と Basket Market で買い物をするために触れた方がより親切であろう。また最後の文は関係代名詞の限定用法を用いて表現するのは不自然である。

コラム

～日本文をまず作るべきかどうか～

「自由英作文」において、書くべき内容の日本文をまず作るべきかということを問う生徒諸君も多い。理想的な姿勢はやはり「日本語を介さずに直接英語を書いていく」ということになろう。基本的に自分の使いこなせる英語の語句・構文を用いて書いていけばよいのであって、先に日本文を書いてそれを英語に直すと、日本語に相当する英語表現がわからないためつまずいてしまう、ということになりかねない。しかしながら、直接英語で書き始めるのが困難な場合は、まず日本語の簡単なメモを作り、それをもとにして英語で表現していくのも 1 つの方法である。その場合も、日本語のメモはあくまでも自分の書こうとする内容を整理するためのものであり、そのまま英語に直すためのものでないことに注意しよう。

いずれにせよ、よい英文をスムーズに書けるようにするために、日頃から英語の文章を多く読んで、語彙を増やし、使える表現ができるだけたくさん身につけるようにしておくことが大切である。

合格解答例

①

(So,) first cross the bridge in front of the station. Go straight three blocks until you come to Wood Street. You can buy some flowers at Rubi's Flowers on the right-hand corner. Then go back down the street and turn right at the first corner. If you walk two blocks to Reele Avenue and turn right, you'll find Basket Market on your right, opposite the post office. After buying some paper cups for me, go straight on for one block to Penn Street and turn right. My house is the third one from the corner on the left. You can't miss it. (101 words)

合格解答例

②

(So,) first cross the bridge in front of you and walk three blocks. Rubi's Flowers is on your right and you can buy the roses there. Then you have to go back one block and turn right. Walk for two blocks to Keele Avenue and turn right again. Go past the post office and you will see Basket Market on your right. You can buy the paper cups there. Continue walking up Keele Avenue until you get to Palm Street. Then turn right. My house is the third one on the left. (91 words)

Further Comments

道案内の表現はまず「わかりやすさ」を心がけたい。地図上に与えられた目印をすべて盛り込むと、かえってわかりにくくなる場合も多い。この問題では特に Sandbay Bank, Service Station, George Wanton Memorial Park, St. Mary's Elementary School などにふれる必要はない。